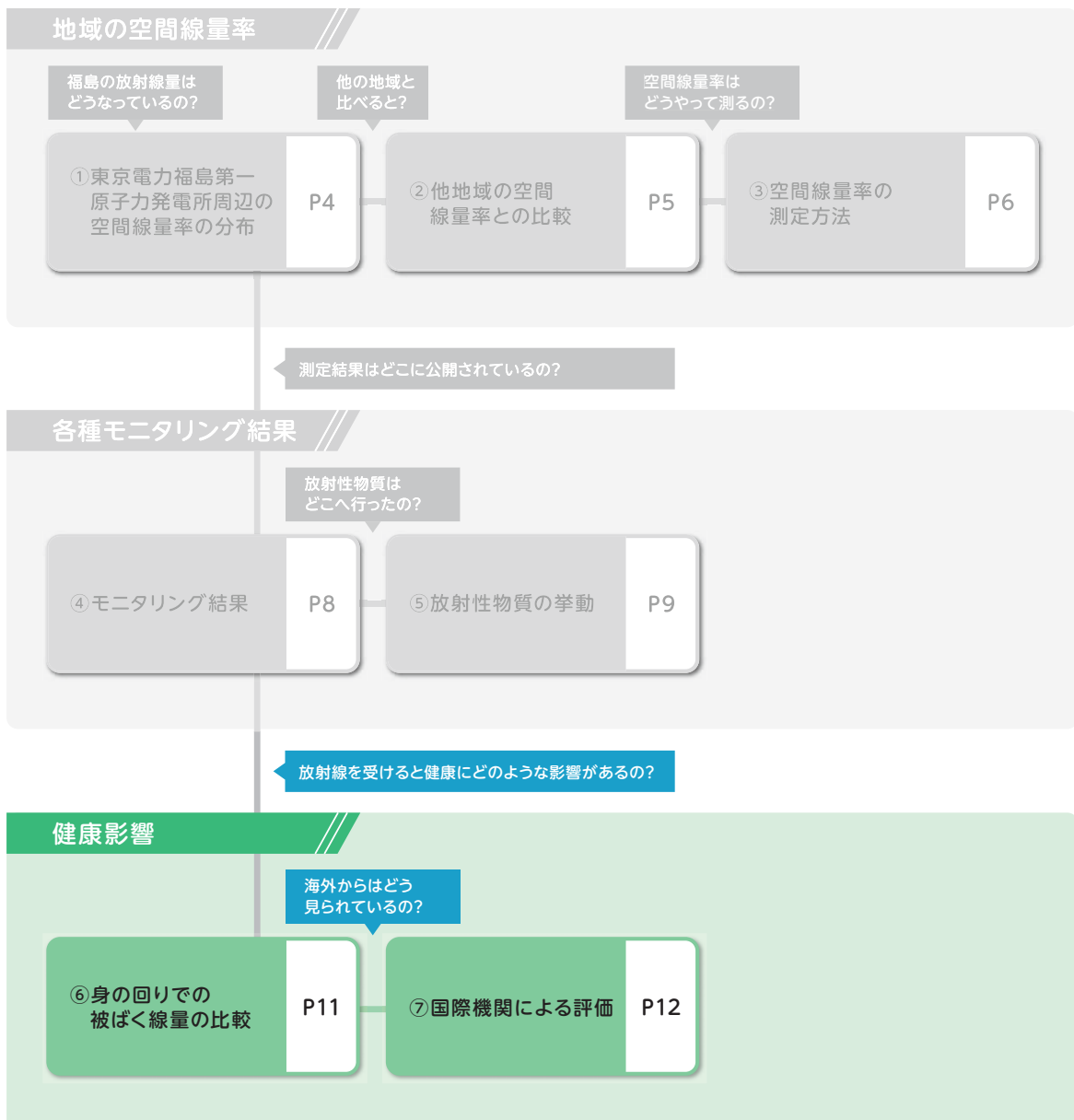




テーマ 健康影響

日常生活を送る上で受けている、身の回りにある様々な放射線被ばくとその線量についてまとめています。また、放射線被ばくに関する国際機関による評価も紹介しています。

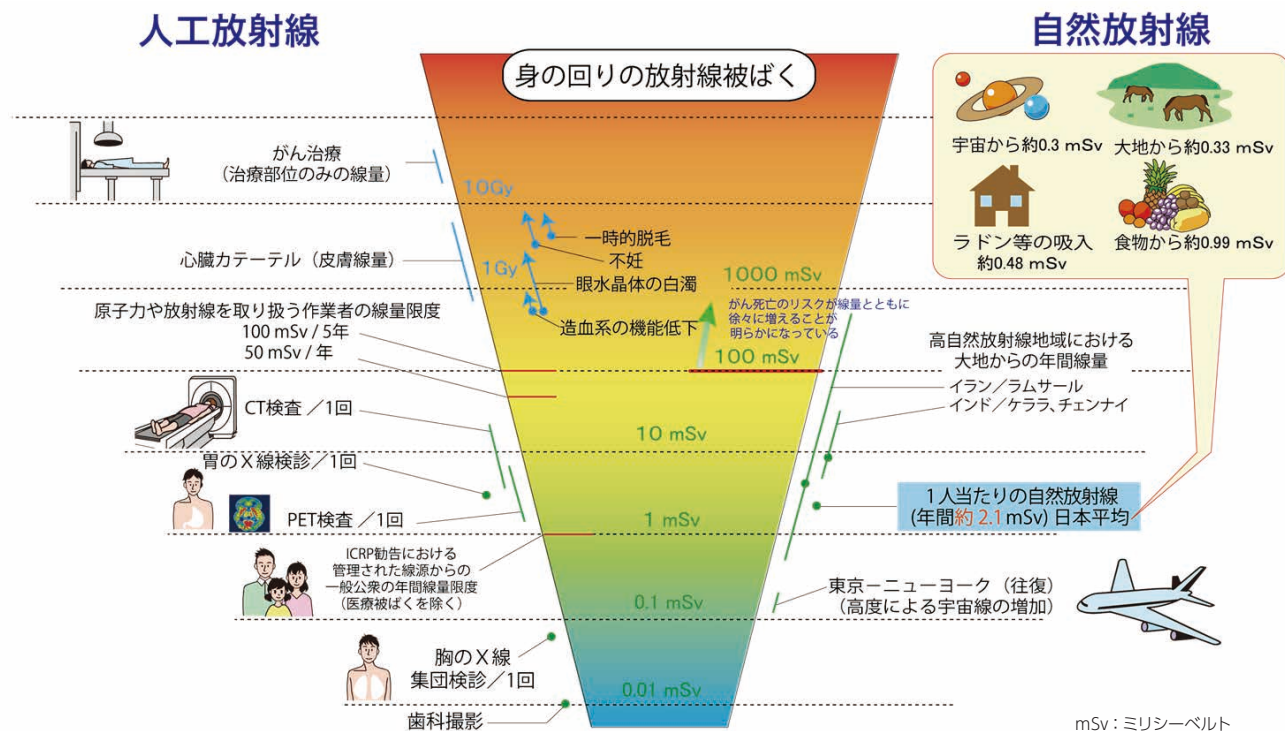




⑥身の回りでの被ばく線量の比較

身の回りでの放射線被ばくは、どの程度の被ばく線量なのでしょう。

●被ばく線量の比較(早見図)



出典:

・国連科学委員会 (UNSCEAR) 2008 年報告書
 ・国際放射線防護委員会 (ICRP) 2007 年勧告
 ・日本放射線技師会医療被ばくガイドライン
 ・新版 生活環境放射線 (国民線量の算定)
 等により、放射線医学総合研究所が作成 (2018 年5月)

被ばく線量の比較の詳細は平成30年度版 上巻 76 ページを参照

人への健康影響が確認されている被ばく線量は、100ミリシーベルト以上と考えられています。

調査結果の詳細は平成30年度版 上巻 114 ページを参照



⑦ 国際機関による評価

観光で日本を訪れようと考えている海外の方の中には国際機関がどのように東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を評価しているかにも関心を持つ方もいらっしゃるかもしれません。代表的な2つの国際機関の調査概要と結論を見てみましょう。

	世界保健機関 (WHO)	原子放射線の影響に関する国連科学委員会 (UNSCEAR)
結論	今回の事故による放射線によって、疾患の罹患の増加が確認される可能性は小さく、福島県のいくつかの地域以外や、日本近隣諸国ではリスク増加は無視できる水準である。	事故により日本人が生涯に受ける被ばく線量は少なく、その結果として今後日本人について放射線による健康影響が確認される可能性は小さい。
目的	事故後1年間の住民の被ばくによる健康リスクを見積もる (保守的評価)	<ul style="list-style-type: none"> • これまでに得た情報を集約し、評価する • 科学的な知見を提供する (現実的評価)
内容	<ul style="list-style-type: none"> • 被ばく線量推計 • 健康リスク評価 	<ul style="list-style-type: none"> • 原発事故の時系列的展開 • 放射性物質の放出と拡散状況 • 公衆の被ばく線量 • 作業員の被ばく線量 • 健康影響 • ヒト以外の生物の被ばく線量とリスク評価
評価時期	事故発生直後 (2011年9月までのデータ) 事故直後は精度の高くない情報も多い。	事故からある程度の時間が経過 (2012年9月までのデータ) 一部の更に新しい情報は特に適切であった場合は考慮に入れた。
公表時期	線量評価：2012年5月 健康リスク評価：2013年2月	2014年4月

1. 世界保健機関 (WHO) による線量推計及び健康リスク評価の報告書：
 - Preliminary dose estimation from the nuclear accident after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami (2012)
 - Health risk assessment from the nuclear accident after the 2011 Great East Japan earthquake and tsunami, based on a preliminary dose estimation (2013)
2. 原子放射線の影響に関する国連科学委員会 (UNSCEAR) 年次報告書 (2013年)：
 - SOURCES, EFFECTS AND RISKS OF IONIZING RADIATION UNSCEAR 2013, Report, Volume I, REPORT TO THE GENERAL ASSEMBLY SCIENTIFIC ANNEX A: Levels and effects of radiation exposure due to the nuclear accident after the 2011 great east Japan earthquake and tsunami (2013)

UNSCEAR2013年報告書の発表以降に公表されている新規情報についても継続的なフォローアップを行っています。2017年10月に公表された白書では、2013年報告書の結論に変更の必要は無いと判断されています。

評価の詳細は平成30年度版 上巻 183、199、200 ページを参照